三瓶山とソバ畑

しまねの自然

vol.41　平成24年3月

【特　　集】三瓶自然館開館20周年 …… 2
【ザヒメルトピックス】三瓶山の魅力を映像に …… 3
【自然保護】北三瓶小児童によるオキナグサ植栽 …… 3
【自然観察会】鯛の巣山自然観察会他 …… 4
【公園施設】船通山・立久恵峡における施設整備 …… 5
【選定地域】高津川ヒメバイカモ自生地他 …… 6
【中国自然歩道】やなしお道モデルコース …… 6～7
【条　　例】指定希少野生動植物の追加指定 …… 7
【表　　彰】自然保護関係表彰受賞者紹介 …… 8
【お知らせ】比婆山の「陰陽竹」 …… 8

発行／島根県自然公園協会

〒690-8501 島根県松江市殿町１番地　島根県自然環境課内　Tel.0852-22-6172 Fax.0852-26-2142

特集『ありがとう開館20周年』
～島根県立三瓶自然館「サヒメル」～

三瓶自然館の設置

島根県立三瓶自然館「サヒメル」は、自然とのふれあいと共生をテーマに、県内に生息する生き物の生態や環境、三瓶山の形成など、島根の自然について幅広く学び体験することができる自然学習の拠点施設として、平成3年10月にオープンし、これまでの20年間に県内外の皆様から広く愛され230万人を超える方々にご利用いただきました。

愛称とマスコットの誕生

平成14年のリニューアルに併せて三瓶自然館の愛称を募集し「サヒメル」と決定されました。これは、三瓶山の古い名である「佐比売山（さひめやま）」と情報発信を意味する「メール」から作られた造語で、三瓶から島根の自然に関する情報を発信するという思いが込められています。また、三瓶自然館のマスコットである「テン」のキャラクターデザインと名前も募集され「テンピー」というかわいらしいキャラクターが誕生しました。

開館20周年記念事業

平成23年7月には「夏の企画展：鉱物きらり」のオープニングに併せ、開館20周年記念式典を開催しました。

式典には、多くの来賓の方々やこれまでサヒメルを支えて頂いた皆様にご出席頂くと共に、サヒメルの運営と資料収集などに多大なご協力を頂いた松井整司氏・枚村喜則氏・岡本一郎氏の3名に感謝状の贈呈が行われました。

また、広島県三次市からは「サヒメルファン」の子供達（三次青空保育園）が駆けつけ「お出かけサヒメル」という自作の歌を披露してくれました。

埋没林の発掘と設備の充実

平成14年4月には、環日本海の自然や巨大埋没林をテーマとした常設展示、大型天体望遠鏡を備えた天体観察コーナーを設置するなどして拡充オープンし、平成15年5月には、小豆原の巨大埋没林発掘現場をまるごと展示施設として整備した「三瓶小豆原埋没林公園」を付属施設として開園しました。

また、平成21年度には、プラネタリウム施設を最新のデジタル技術と融合させた魅力あふれる施設へ改修し、空調設備についてもCO_2排出量を大幅に削減することができる木質バイオマス利用機器へ更新するなど、自然環境にも配慮した自然博物館として展示機能と設備の充実を図ってきました。

企画展の開催

博物館活動の柱の一つである企画展については、自然科学の魅力、島根の自然の再発見、タイムリーな話題など、常設展示だけでは伝えきれないテーマを提供するため、これまでの20年間に様々な企画展を46回開催しました。

中でも平成17年に開催した企画展「月へのいざない」では、アポロ16号が持ち帰った「月の石」をアメリカ航空宇宙局（NASA）から借り受けて展示し人気を博しました。NASAのセキュリティー基準を満たすため24時間監視体制と自然館スタッフによるアメリカからの直接運搬など苦労と貴重な経験を得ることもできました。

おわりに

今後も、自然環境に関する情報の発信と充実した企画展の開催、自然学習の機会拡大に積極的に取り組み、自然科学の面白さと島根の自然のすばらしさ、自然環境を守ることの大切さを感じていただけるよう努力して参りますので、多くの皆様にご来館いただきますと共に引き続きご支援とご協力をお願いいたします。

【サヒメルトピックス】三瓶山の魅力を映像に

三瓶自然館の大切な役割のひとつに、三瓶山の魅力の発信があります。その取り組みとして、平成24年度の「しまね映画塾」を誘致し、三瓶地区を主会場として開催することになりました。これは、映画製作を体験するワークショップで、6月頃の説明会から始まり、シナリオ募集、映画化シナリオの選考会、そして、9月15日～17日に塾生が三瓶に集まり、撮影と編集を行います。完成した作品は11月頃に上映会が行われ、半年がかりでの大きなイベントとなります。

三瓶山の自然景観は、火山としての生い立ちからはじまる自然そのものが作り出した要素と、人が関わることで成立した里山的な要素が絡み合って成立しています。それだけに、様々な切り口があり、多くの人が映画作成という視点で三瓶山を見つめることで、新たな魅力の発見や再確認があると期待しています。

また、琴ヶ浜などの海岸や、石見銀山遺跡を撮影地とすることもでき、様々な要素がある大田市ならではの作品が生まれることも期待されます。三瓶山と周辺地域の魅力発信機会となるよう、映画塾の成功に向けて準備を進めています。

三瓶山自然林を歩く。人の手がほとんど加わっていない森も残されています。

牛の放牧風景。江戸時代にはじまった牛の放牧が、三瓶山の草原景観を作りました。

鳴り砂で知られる琴ヶ浜。海に近いことも三瓶山の特徴。

北三瓶小学校児童による三瓶西の原へのオキナグサ植栽

オキナグサは、キンポウゲ科の多年草で、県内での生息地は極めて少なく、個体数も激減している為、しまねレッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に選定されています。

生息地のひとつ、国立公園三瓶西の原に近い大田市立北三瓶小学校児童は、「オキナグサをふやそう大作戦」として、大田の自然を守る会　会長　伊藤　宏氏の指導により、学校敷地内にて種子からオキナグサを育成しています。

平成23年10月19日（水）、北三瓶小学校三、四年児童29名とその家族、及び地域住民、大田の自然を守る会、三瓶自然館サヒメル、大田市役所職員の総勢60名で、2年掛けて育成したオキナグサ75株を三瓶西の原に移植し、児童による2年間の育成発表がありました。

また、平成24年3月13日には、地域全体の問題として、地域住民と共に環境保全学習を実践する北三瓶小学校のオキナグサ保全活動に対し、島根県知事より平成23年度環境保全功労者感謝状が授与されました。

北三瓶小学校児童による植栽

移植されたオキナグサ

鯛の巣山自然観察会（奥出雲町）

鯛の巣山は、出雲の国風土記に「志努坂野。郡家西南卅一里〈有紫草少少〉」と記された標高1,026mの山です。神の御門（みと）があったとされる猿政山の西に位置したことから、古くは西山と呼ばれました。この山の6合目には「籠（こも）り岩」と呼ばれる巨岩があり、この岩屋でイザナミノミコトが「7日7夜籠って難産の上出産にこぎつけた」という伝説もあります。

さて、鯛の巣の自然を守る会では毎年、小学校の遠足に合わせて一般地区民の自然観察会を行っています。今年は10月23日の土曜日に実施しました。生憎の不安定な天候の中での観察会となりましたが、本会会員、みとの会、横田山の会、地元福友会など諸団体の協力で思い出に残る観察会を行うことができました。指導項目は「鯛の巣山の名の由来」「山における天気変化」「鯛の巣の植生の特徴」「植物の種の飛ばし方いろいろ」など講師が得意とするところを全員向けに、また歩く途中ではグループごとに植物の名前や特徴を、質問を受ける形で説明しました。子どもたちは、植物の名前を覚えるのは難しいようでしたが、講師が戸惑うほど積極的に質問していました。また、普段経験できない霧の発生状況やガスが森を覆う様子を見ることができ、ガスの中を歩きながら自然の神秘を体感することもできました。

種の飛び方を説明する森林インストラクター

安蔵寺山ブナ林自然観察会（津和野町）

平成23年6月19日（日）に、恒例の安蔵寺山ブナ林自然観察会が開かれ、町内をはじめ、山口県などから総勢43名が開催場所の安蔵寺山奥谷登山口駐車場に集まり、植物観察班、野鳥観察班、山頂登山班に分かれて自然観察を行いました。

植物観察班は、講師の先生に質問しながら熱心に興味深く時間をかけ観察をしました。講師の先生の解説は、参加者に匂いをかがせたり、木の実を口にさせたりと五感を生かしての観察を行いながら、植物の面白さを充分に堪能させてくれました。

野鳥観察班は、鳥のさえずりに耳を傾けながら、ミズナラの巨木の先まで観察を行いました。歩いていると遠くの枝木にオオルリが姿を現し、みんなで双眼鏡をのぞいて観察。胸の白さを確認でき、写真を綺麗に撮る人もいました。途中で、木の幹に鳥の巣を発見し、ちょうど鳥がえさをあげるところを観察することもできました。

山頂登山班は、大規模林道の安蔵寺トンネルから単独峰としては県内最高峰の標高1,263mの山頂を目指しました。青々とした草木の息吹に包まれ、ブナやミズナラを見上げていると、人間も自然の一部であることに気付かされます。参加者の皆さんは、インターネットの画面からだけでは味わうことのできない、安蔵寺山の大自然を体ごと実感することができ、大変満足した様子でした。

群生する
カタクリの癒し

スサノヲ降臨の地 鳥髪の峰リニューアル 船通山

船通山（1,143m）は、我が国最古の歴史書「古事記」に記されたヤマタノオロチ神話の主人公、スサノヲノミコトが舞い降りた「鳥髪」の地にある山として知られています。

毎年、スサノヲが繰り広げた壮大なオロチ退治の物語と、天下大平・五穀豊穣また万民の幸せを祈願して、奥出雲町とお隣の鳥取県日南町の神職会による「宣揚祭」が7月28日に山頂で開催されます。このお祭りでは、神職がスサノヲノミコトに扮し「剣舞」が奉納されます。そして、山頂にはオロチ退治の際に出顕した「天叢雲剣出顕之碑」が建立されており、船通山を象徴するシンボルとなっています。

また、5月のゴールデンウィーク頃には、山頂に群生するカタクリの花の癒しを求めて、多くの登山客で賑わうほか、ササユリやエンレイソウ、秋のブナの原生林などの草花や紅葉を気軽に楽しめるトレッキングコースとして、登山客が絶えない山でもあります。

これまで山頂には昭和54年に整備された避難小屋がありましたが、老朽化が激しく山頂での休憩に不便を与えてきました。

奥出雲町では、23年度に、県の補助金を活用して、休憩避難小屋を改築するのに併せて、最新式の山岳用バイオマストイレを整備しました。これによって、船通山の登山客のおもてなしと利便性が格段に高まりました。

さらに本年は、古事記編さん1300年の年にも当ります。出雲神話発祥の地、船通山の魅力が高まり、麓に湧き出る日本三大美肌湯の斐乃上温泉と併せ、更に多くのお客様に訪ねていただくことをお待ちしています。

【問い合わせ先】奥出雲町地域振興課観光推進室
TEL 0854-54-2524

新しくなった休憩避難小屋

山頂神事「宣揚祭」剣舞

秋の登山道

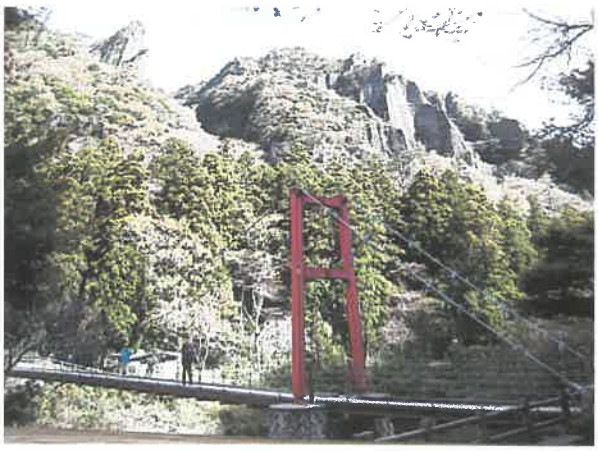
みんなでドキドキ　ワクワク体験　～立久恵峡　わかあゆの里（出雲市）

出雲市街地から20分の位置にあり、奇岩、柱石が天空にそびえる峡谷である立久恵峡。県下でも類を見ない貴重な植物群もあり自然観察コースにもなっています。その立久恵峡を流れる清流神戸川の上流に「キャンプ場わかあゆの里」があります。

平成18年の豪雨災害により吊り橋、遊歩道、キャンプ場などすべての施設が流れ壊滅的な被害を受けましたが国、島根県、出雲市、地域の努力により平成23年4月に待望の「立久恵峡わかあゆの里」が復活を果たしました。

新しくなったキャンプ場に加え、米粉、そば粉の製粉、陶芸教室、そば打ち体験研修室など地域と市内外の利用者が交流できる施設としてオープンし、初年度からたくさんの人に喜ばれています

【問い合わせ先】わかあゆの里　TEL 0853-45-0102
http://wakaayu-izumo.jp/


立久恵峡渓谷

神戸川鮎のつかみ取り

「みんなで守る郷土の自然」新規選定地域

身近な生活環境の中に点在している動植物の生息地などの貴重な自然や、地域住民のシンボルとして親しまれている自然環境を「みんなで守る郷土の自然」として選定しています。地域での自然保護意識がいっそう高まり、継続的に保全活動が行われることを目指しています。

今回は新規に選定した次の2箇所についてご紹介します。

○三瓶山東の原草原環境（大田市三瓶町志学）
＜平成22年度新規選定＞

三瓶山には絶滅の危機に瀕している草原性の野生動植物が生息生育しています。このため、NPO法人緑と水の連絡会議、大田の自然を守る会、志学小学校、研究・行政機関及び地域の方々などが協力して草原環境の維持とウスイロヒョウモンモドキやダイコクコガネなどの保全活動が行われています。平成23年11月には志学小学校の子どもたちによるウスイロヒョウモンモドキの食草であるオミナエシの植栽活動などが行われました。

ウスイロヒョウモンモドキ

ダイコクコガネ

オミナエシの植栽活動

○高津川ヒメバイカモ自生地（吉賀町九郎原～有飯）
＜平成23年度新規選定＞

高津川上流域には、ヒメバイカモという日本でも数箇所でしか見ることができない希少な水生植物が自生しています。また、ヤマメ、タカハヤ、ドンコ等の清流に生息する魚類が多く見られます。そこで、コウヤマキの会、NPO法人アンダンテ21、島根大学、行政機関などが連携して、この河川環境とヒメバイカモの保全・保護活動が行われています。平成23年11月には保全団体と柿木中学校の生徒によるヒメバイカモの生育条件調査が行われました。

ヒメバイカモ生育条件調査

中国自然歩道　自然と歴史を楽しむ「やなしお道」モデルコース

中国自然歩道は、自然の中を歩きながら地域の豊かな自然や歴史、文化に親しんでもらい、あわせて自然保護に対する意識も高めてもらおうという趣旨で、県や市町村が整備・管理する歩道で、中国5県を結んでいます。このうち特にみどころの多いコースをモデルコースとして、現在37のコースを設定しています。

今回は、邑智郡美郷町小松地から湯抱までを結ぶ「やなしお道モデルコース」を紹介します。

やなしお道は、600年以上前から存在する古道で、石見銀山から瀬戸内まで銀を運んだ「銀山街道」として利用されてきました。約6kmの平坦な尾根道と標高差200mあまりをつづら折りで下りる道で合計約7kmの歩道です。

歩道沿いには、馬に飲み水を与えていた水溜場跡や茶屋屋敷跡、一里塚など往時の賑わいを伝える歴史を感じさせる場所が点在しています。また、真砂土と粘土を交互に重ね塩水を加えて突き固めた古代の舗装工法ともいえる「版築工法」を用いて整備された様子を見ることができる場所もあります。

コースの途中にある眺望ポイントからは、三瓶山や、大江高山を望むことができるなど、尾根道からのすばらしい見晴らしを楽しむことができます。このほか、小松地の自然歩道入り口から約15分ほどのところは、十王堂跡と呼ばれており、その周囲にある竹林風景も美しいものです。

地元美郷町では、美郷町銀山街道を護る会が結成され、銀山街道の保全活動や月例のウォーキングイベントが行われています。

県でも、コースの途中に水洗トイレを整備したほか、コースのガイドマップを作成するなど利用促進に努めています。これから迎える新緑の季節を、自然と歴史を満喫できるやなしお道で過ごしてみませんか。

【中国自然歩道ＨＰ】
http://www.pref.shimane.lg.jp/environment/nature/shizen/shimane/chugokusizenhodo/

指定希少野生動植物の追加指定

平成22年4月から施行した「島根県希少野生動植物の保護に関する条例」に基づく指定希少野生動植物として、平成22年12月に指定したダイコクコガネ及びオニバスの2種に続き、新たにミナミアカヒレタビラ、カワラハンミョウ、ヒメバイカモの3種を平成24年3月6日に指定しました。この3種は、いずれもしまねレッドデータブックの「絶滅危惧Ⅰ類」で、県内での生息地・生育地も極めて限定されており、特に保護を図る必要があるため指定しました。この指定により、生きている個体の捕獲や採取が原則として禁止され、違反した場合には1年以下の懲役又は50万円以下の罰金が科せられることになります。

ミナミアカヒレタビラは、タナゴのなかまで県内では大田市の大原川と宍道湖流入河川に生息しています。産卵期は4～7月でイシガイ、ドブガイなどの淡水二枚貝に産卵します。また、形態的な特徴としてオスの背びれと尻びれが赤く、幼魚の背びれに黒班があります。生息環境の悪化や売買を目的とした捕獲などによって個体数が減少しています。現在、生息地においては保全団体や地元小学校を中心とした観察会などが行われています。

カワラハンミョウは、砂質海岸の河口の砂浜などに生息するハンミョウで県内では浜田海岸と益田海岸に局所的に生息しています。成虫は7～8月に出現し、砂上を敏捷に歩行し近づくとよく飛翔します。また、形態的な特徴として上翅（じょうし）は白に銅緑色の模様があります。大規模工事による砂浜の攪乱や売買を目的とした捕獲などによって個体数が減少しています。

ヒメバイカモは、キンポウゲ科の水草で水がきれいな水域に生育し、県内では高津川上流域に生育しています。花期は5～10月で、バイカモに比べて葉や花が小型となっており葉身の長さが1.5～3cm、花の直径が1cm以下の大きさです。また、果実に毛が無い点でバイカモと区別することができます。生育環境の悪化により個体数が減少しています。現在、生育地では保全団体を中心とした観察会などが行われています。

この指定により、県民のみなさまには県内における絶滅のおそれのある希少野生動植物について知って頂き、これらの種が生息・生育できるような環境を保全する活動を地域の方々とともに進めていきます。

ミナミアカヒレタビラ

カワラハンミョウ

ヒメバイカモ

やなしお道トイレ

十王堂跡近くの竹林

三瓶山展望所（写真の左方向に目を向けると三瓶山が見える）

自然保護関係表彰受賞者の紹介

藍綬褒章

奥出雲町　小早川　正彰さん

比婆道後帝釈国定公園で、長年自然公園指導員として、動植物の保護や美化活動に努め、利用者への自然保護思想の啓発に尽力されています。

島根県各種功労者（島根県知事）

益田市　鼠谷　清さん

長年自然公園指導員を務められ、地域における自然保護に寄与されています。

津和野町　にちはら自然の会

安蔵寺山を中心に、自然環境保全活動に取り組み、地域における自然保護に寄与されています。

「みどりの日」自然環境功労者（環境大臣）

大田市　伊藤　宏さん

大山隠岐国立公園三瓶山地域を中心に、ウスイロヒョウモンモドキの保全活動など希少野生動植物を保護するための様々な活動をされています。

自然公園関係功労者（環境大臣）

大田市　岩谷　由美子さん

大山隠岐国立公園において、長年、自然解説活動や野生動植物の調査・情報提供を行うなど、自然保護思想の普及啓発・動植物保護に尽力されています。

自然公園指導員（環境省自然環境局長）

奥出雲町　佐佐木　幸雄さん

船通山や吾妻山等を中心に自然公園指導員として活動されています。

自然歩道関係功労者（環境省自然環境局長）

邑南町　中村　繁實さん

中国自然歩道「断魚渓・千丈渓コース」の日和地区で、草刈りや美化清掃など自然歩道の維持管理に尽力されています。

環境保全功労者知事感謝状

大田市　大田市立北三瓶小学校

三瓶山において、オキナグサの保全活動をされています。

比婆山の「陰陽竹（いんようちく）」（安来市）

安来市伯太町に位置する海抜300mあまりの比婆山（ひばやま）は、古事記に登場する伊邪那美命（いざなみのみこと）の御陵だと言い伝えられており、現在も安産の神様として多くの参拝者が訪れています。歴史的にも魅力ある山ですが、自然学的にも貴重な山です。山頂付近には、真竹に似た幹（径2～3cm）に笹のような大きい葉（幅6cm・長さ25cm）を持つ植物が分布しており、男竹に女性的な笹がついているために「陰陽竹（いんようちく）」と呼ばれています。「陰陽竹」は全国的にも数箇所でしか見られない非常に珍しい竹で、県の天然記念物にも指定されています。また、この竹には、伊邪那美命が比婆山に登られたときの竹杖が根付いたとする伝承もあります。

一方、山の北側の採石場跡では、玄武岩の柱状節理を観察することができます。120～130万年前の火山活動により形成されたと言われ、規則正しいきれいな割れ目は自然がつくりだした芸術です。

平成24年度は、古事記編纂1300年記念として、県内でも様々なイベントが開催されます。この機会に、ぜひ比婆山を訪れ「陰陽竹」や「柱状節理」を観賞し、いにしえの世界観を体感してみてはいかがでしょうか。

【問い合わせ先】安来市商工観光課
TEL 0854-23-3340

陰陽竹

玄武岩の柱状節理

表紙の写真

三瓶山とソバ畑：三瓶山は標高1,126mのトロイデ型の火山。男三瓶、女三瓶、子三瓶、孫三瓶の4つの峰が環状に連なっており、裾野には牛の放牧地や草原が広がる。写真のような里山的な自然環境も三瓶山の魅力のひとつ。（P3サヒメルトビックス参照）